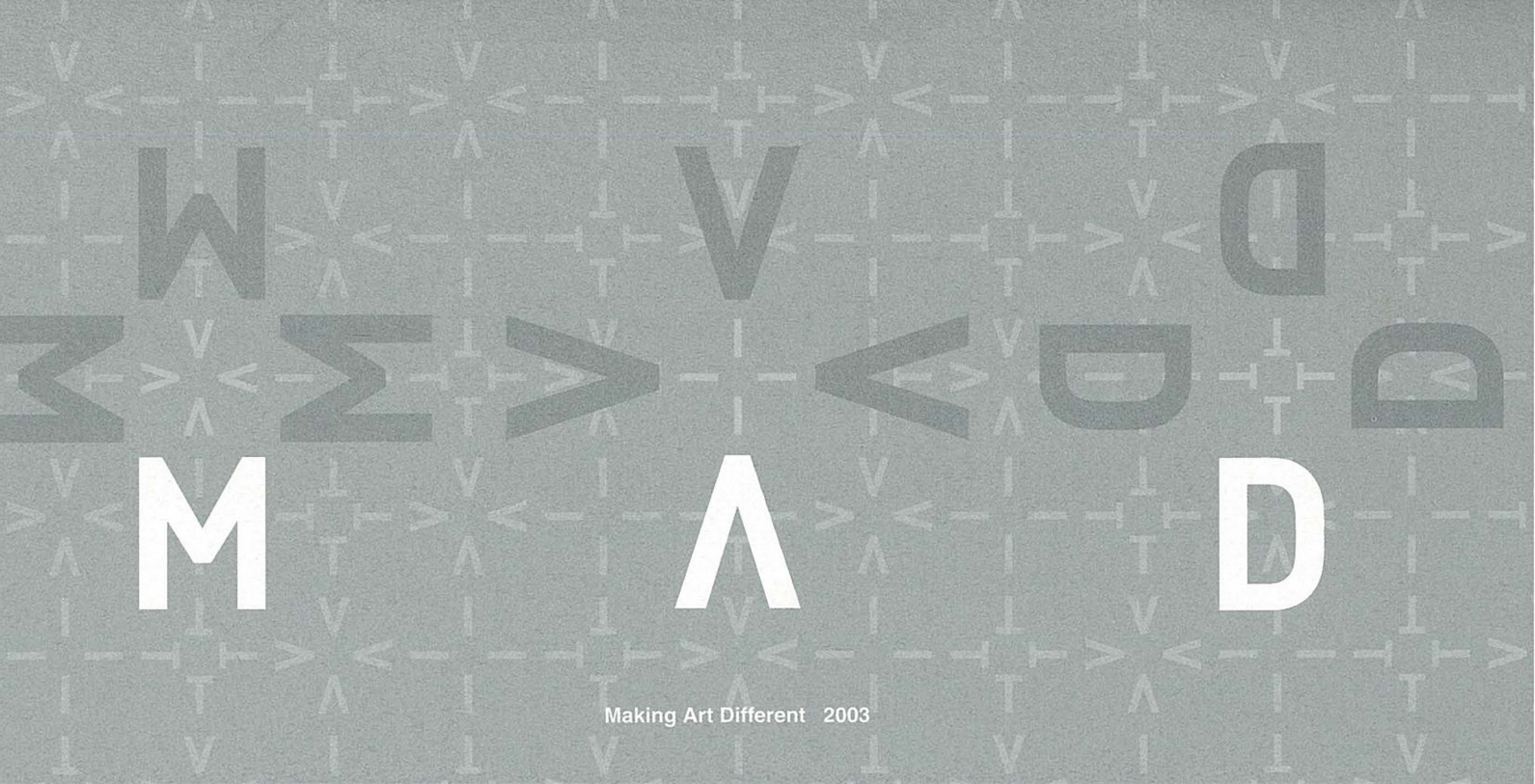




W

V

D

W

W

V

V

D

D

M

A

D

ここ数年、「キュレーション」という言葉を、以前よりも頻繁に目にするようになってきました。それは展覧会が、美術館やギャラリーといったアートに特権的な空間を抜け出し、廃校、屋外、そして地域を巻き込んで開かれるケースが増えてきたことや、これまでのキュレーションの方向性が見直され、さらにそれに挑戦する動きが出てきたことにもよるでしょう。このコースでは、コンテンポラリーアートの枠組みの変化に伴って、キュレーションの役割や方法も活発に議論されている中、キュレーションとは何かを考え、その可能性を探ります。キュレーターを目指す人のための12ヶ月のコースで、理論的・歴史的な基礎プログラムです。

# CURATION 1

キュレーション 1

[コースの構成] このコースは、基本的にレクチャーとグループセミナーで構成され、コース終盤には、ワークショップとOn Paper（小論文）が課されています。

- 1 レクチャーシリーズは、キュレーションの基礎となるもので、展覧会の歴史や美術様式の変遷、空間や展示に関する考え方、展覧会の制作におけるマネージメント、宣伝広報、そして展覧会の記録といった事柄を取り上げます。
- 2 グループセミナーシリーズでは、コンテンポラリーアートを理論的に考えるために鍵となるテキスト、スライド、映像などを通して、重要な用語や考え方を紹介し、文化的、批評的なコンテキストでキュレーションを理解することを目指します。これらの基本プログラムに加えて、ゲストレクチャーを招き、彼らのキュレーションの経験談を通じて、より実践的な「今」のキュレーションのあり方について探ります。
- 3 ワークショップでは、展覧会作りのシミュレーションを行います。ここでは、テキスト、キャプション、プレスリリースなどの形式を踏まえた上で、複製イメージやその他様々なものを使い、1つの展覧会を作ることを目的とします。
- 4 On Paperは、小論文（エッセイ）で、コース参加者全員の最終的な必須課題として提出、発表します。

レクチャーは、コースディレクターやゲストレクチャーにより、1ヶ月に1回、2クラス合同（約24名）で行われます。グループセミナーは、コースディレクターにより、1ヶ月に1回、クラス別（約12名）に分かれて行われます。

## プログラム

[レクチャーシリーズ] なぜ人はものを展示するのか？／歴史的観点からみた展覧会／展覧会空間とその意味／美術館、ギャラリー以外の空間での展覧会／コミュニケーション  
展覧会と教育／展覧会の広報（プレスリリースや広報宣伝）／展覧会の記録（カタログ制作など）／スポンサー活動とマネージメント／展覧会関連イベントとその企画（予定）  
[グループセミナーシリーズ] テーマ例＝アートの自立性／場／プロセス／アヴァンギャルド／連続性／他者／複製芸術／帝国／ネットワーク／アイロニー（予定）

2002年度の主なゲストレクチャー＝内田真由美氏（アートコーディネーター）／片岡真実氏（森美術館 キュレーター）／神谷幸江氏（インディペンデントキュレーター）  
島袋道浩氏（アーティスト）／南條史生氏（森美術館 副館長）／平野到氏（埼玉県立近代美術館学芸員）／山下裕二氏（明治学院大学文学部芸術学科教授）ほか



この新しいコースは、国際的な文脈の中でキュレーションを考え、美術理論や現代思想に基づく議論と、実際に行われている展覧会などに足を運ぶことの2方向から、より実践的にキュレーションを考えます。受講生は、特に関心の高い事柄についての研究や調査をし、実際に公開トークや展覧会の企画なども試みます。マッドのキュレーション1を修了した方、それに相当する教育やプログラムを受けた方、あるいは実際に展覧会企画などに携わった経験のある方を対象とする15ヶ月のコースで、より専門的・実践的な上級プログラムです。

# CURATION 2

## キュレーション 2

【コースの構成】このコースは、基本的にグループセミナーとフィールドトリップで構成されます。

また、コース受講者主催による公開トークや展覧会の企画などの共同作業を通じて、実践的にキュレーションを学ぶことを目指します。

- 1 グループセミナーは、コースチューターの他、キュレーター、評論家、アーティストなどのゲストレクチャーを招き、受講者それぞれの研究や調査に有益なアイデアや考え方について専門家を交えて議論し、分析的・批評的な視点を高めます。クラスは、受講者、ゲスト、コースチューターの対話が最も重要な要素となるため、5～6名の超少人数で行われます。
- 2 フィールドトリップは、東京近郊の美術館、ギャラリー、オルタナティブスペース、イベント、スタジオなどを訪ね、キュレーター、アーティスト、主宰者の話を実際に聞き、リサーチを行います。アートと建築、自然、都市環境などとの連関も視野に入れ、社会におけるアートについて、様々な角度から検証を試みます。また、この体験を通じて、様々な分野でのネットワークを広げることも目指しています。なお、展覧会入場料は、受講費に含まれ、6～8回のフィールドトリップを予定しています。

グループセミナーとフィールドトリップは、月2回以上、不定期的に行われます。日時は、コース受講者とチューターとで決定される予定です。

キュレーション1との違いは、6名という超少人数により、シミュレーションにとどまらず、実際に展覧会などの実践を目指す点です。

このコースは、国内外で自分の作品のプレゼンテーションを積極的にしていこうと考えるアーティストのための3ヶ月集中コースです。これから海外への留学を考えている方、キュレーターや評論家に対して自ら作品を紹介することを考えている方、プレゼンテーションスキルの向上を目指す方を対象としています。

# ARTIST

アーティスト

このコースでは、刻々と変化する国際的な現代美術の文脈の中で、現代美術を考える上での専門用語や基礎となる理論、美術界の仕組み、アーティストとして知っておきたい現在の美術の状況などについてのレクチャーを中心とします。自分の作品を広い視点から眺めるために、グループで批判的かつ積極的な議論を試みます。最終回のクラスでは、美術専門家をゲストとして迎え、各自のベストプレゼンテーションを目指します。また、コースディレクターの経験に基づき、ポートフォリオ、ステートメント（作品制作意図）の作成についても適宜、教示します。

## プログラム

アーティスト・ステートメントの作成と作品のプレゼンテーション／「ポストモダン」という考え方／美術の専門基礎用語

コンテンポラリーアートの傾向／マッピング・アート・シーン（アート界の仕組み）／専門家を迎えての各自プレゼンテーション

プログラムは12名という少人数制で行われます。

## 2002年度のゲスト

神谷幸江氏（インディペンデント・キュレーター）／辛美沙氏（元ARCUS ディレクター／森美術館 広報部マネージャー）／南條史生氏（森美術館 副館長）



このコースは、「現代美術って面白そうだけど、いまひとつわからない」「国内外のアート情報にもっとふれたい」「興味を共有する仲間とアートについて語り合いたい」という方を対象とする7ヶ月の入門的なプログラムです。

# AUDIENCE

オーディエンス

このコースでは、キュレーター、評論家、アーティストなどのゲストレクチャーとコースディレクターによるレクチャーと、話題の展覧会、美術館、ギャラリースペース、アートプロジェクトなどへの訪問で構成され、いずれもそれぞれの場や作品に応じたゲストレクチャーと受講者の対話を中心とします。訪問する場所に応じて、メンバー専用の小型バスを活用することで、見学を効率的で快適なものにします。その他、2003年に行われる大規模な国際展の新しい情報も、実際に現地に行ったレクチャーが、ヴィジュアルイメージを交えてレポートします。興味を共有する人たち、ゲストレクチャーと共に見て、話し合うことで、より能動的な鑑賞の機会を提供します。

## 2002年度の主な展覧会訪問先および講義内容

「The Essential」展 千葉市美術館／「ダグ・エイケン ニュー・オーシャン」展 東京オペラシティアートギャラリー／「TAP 2002 取手アートプロジェクト」

現代美術製作所／「アンダー・コンストラクション」展 国際交流基金アジアセンター、東京オペラシティアートギャラリー／その他

「現代美術を考える」市原研太郎氏（美術評論家）：ルネサンス期からゲルハルト・リヒターまで、社会と絵画を表すものの関係について分析する。

「世界の国際展レポート：ドクメンタ、マニフェスタ、サンパウロビエンナーレ、光州ビエンナーレ」南條史生氏（森美術館 副館長）

「美術としての写真」飯沢耕太郎氏（写真評論家）：「キヤノン写真新世紀」の過去10年の作品傾向をもとに、写真について考える。

「開かれた作品」杉田敦氏（美術評論家）：ウンベルト・エーコ著の『開かれた作品』をもとに、作品と社会の関係を考える。



このコースは、アーティスト、キュレーター、オーディエンス、コレクター、学生などを対象とする3ヶ月コースです。海外のアート専門誌を通じて、「世界のアートの動向を知りたい」、「注目のアーティストや新しい美術館の動き、話題となった展覧会に対する批評や議論、アートマーケットのニュースなどにふれたい」という方のための入門的なプログラムです。

# MAGAZINE

マガジン

このコースでは、毎月発行されているコンテンポラリーアート雑誌の記事を取り上げ、記事の内容やその背景、頻繁に使われる英語の専門用語の解説とグループディスカッションを中心とします。世界各国では、コンテンポラリーアートの専門雑誌が数多く出版され、その誌上では、「評論」や「批評」という形で、アートを考える際に有効な理論付けの作業や積極的な議論が行われています。例えば、昨年開催された大規模な国際展ドクメンタ11のレビューは、多くの雑誌に取り上げられ、多様な論評によって展覧会が読み解かれました。最新の記事を通じて、世界のアートの動きをつかみます。

## プログラム

マガジン（春・秋・冬開講）は、その時期の最新記事が取り上げられるため、クラスの内容は各期により異なります。

プログラムは12名という少人数制で行われます。

## アート雑誌例

Art Forum（アメリカ）／Art in America（アメリカ）／Frieze（イギリス）／Art Monthly（イギリス）

Art News Paper（イギリス）／Tate Magazine（イギリス）／Parkett（スイス）／YISHU（中国）／Art in India（インド）など

## 2002年度に参照した主な記事

Documenta 11 reviews from *Art Forum*. / The opening of MOMA Queens in *Art Forum*.

The opening of contemporary art in Iran in *The Art Newspaper*. / An in-depth essay on the work of Verne Dawson in *Frieze*.

Review and discussion on the opening of The Palais de Tokyo in *Art in America*.

An interview with Neil MacGregor in *The Art Newspaper*. / The selling off of art in post-bubble Japan in *Newsweek*.

このコースは、現代美術を考える上で参考となる様々な理論や現代思想に関するテキストを読み、現代美術のより深い理解を試みたいと積極的に考えるアーティスト、キュレーター、コレクター、学生などを対象とする7ヶ月のコースです。基本的に英語で書かれた文献を精読するため、英語のレベルが一定以上である方、西洋思想への関心のある方を対象とする中・上級プログラムです。

# CRITICAL READERS

クリティカルリーダーズ

このコースは、哲学者、社会学者、思想家たちの著作を通じて、「現代」について考える少人数のグループセミナーを中心とします。西洋中心的な歴史観や資本主義の限界、巨大メディアの力、インターネットや大量輸送により多様化するコミュニケーション。現代のこうした様々な状況を、ジル・ドゥルーズ、ミシェル・フーコー、アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート、フレデリック・ジェイムソンなどのテキストを参照しながら、そこで語られていることが、実際にどのような形で現代の社会の現象や事件、現代美術、映画、またメディアなどの表現とリンクするかを探ります。また、近年話題となった展覧会のカatalogエッセイなども取り上げ、現代の制度における美術の可能性を模索します。

## 参考文献

*Empire*, Michael Hardt and Antonio Negri, Harvard, 2001

*Visual Culture Reader*, Ed. Nicholas Mirzoeff, Routledge, 1998

*Documenta 11\_Platform 5: exhibition catalog*, Hatje Cantz, 2002 ほか



コース概要

キュレーション1 [12ヶ月]

期間＝クラスA 2003年4月8日 [火]－2004年3月23日 [火] 第2火曜日と第4火曜日

クラスB 2003年4月8日 [火]－2004年3月25日 [木] 第2火曜日と第4木曜日

月2回のうち一回は、合同クラスとなります。8月と9月は休講です。

時間＝19:00－21:00

場所＝AIT ルーム (代官山)

定員＝24名 (1クラス12名×2クラス)

費用＝[受講料165,000円+施設利用費15,000円+入学手続費2,000円] 合計182,000円 (税別)

受講資格＝特になし。ただし、定員数を超える場合、選考あり。

キュレーション2 [15ヶ月] **NEW**

期間＝2003年4月－2004年6月 (月2回～)

時間＝不定期

場所＝AIT ルーム (代官山) および訪問先

定員＝6名

費用＝[受講料250,000円+施設利用費15,000円+入学手続費2,000円] 合計267,000円 (税別)

展覧会入場料を含みます。

受講資格

1 マッドのキュレーション1を修了した方、あるいはその同レベルの知識を有する方

2 英語による美術専門書の読解力を有する方

申込方法＝申込書とともに、英語による展覧会の企画書 (200words/A4サイズ約半分) を

添付すること。詳細については、お問い合わせ下さい。

オーディエンス [7ヶ月]

期間＝2003年4月19日 [土]－2003年12月20日 [土] 第1・3・5土曜日

8月と9月は休講です。

時間＝14:00－16:00 見学するときは時間が変更となります。

場所＝AIT ルーム (代官山) および訪問先 定員＝15名

費用＝[受講料70,000円+入学手続費2,000円] 合計72,000円 (税別)

受講資格＝特になし。

STAFF

ロジャー・マクドナルド [コースディレクター]

イギリスのケント大学で美術理論にて博士号を取得。1998年より、フリーのキュレーターとして、国内外で数々の小さな展覧会を企画。また、「横浜トリエンナーレ2001」では、南條史生氏のアシスタントキュレーターとして活動。東京藝術大学、東京造形大学、テートブリテンでの講義も行う。

小澤慶介 [コースディレクター]

明治学院大学文学部フランス文学科卒業後、イギリスのロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて美術史の修士号を取得。麴町画廊のディレクターとして、これまでにサキシタムやウリ・ツァイグの展覧会を企画。NICAF (国際コンテンポラリーアートフェスティバル) の事務局では海外担当として活動。明星大学非常勤講師。

LIBRARY

AITルームは、コンテンポラリーアートの展覧会カタログ、アーティストモノログ、ビデオ、雑誌、スライドなどの広大なアーカイブです。受講者は、このライブラリーを利用することができます。

アーティスト [3ヶ月]

期間＝春 2003年4月12日 [土]－2003年6月28日 [土] 第2・4土曜日

秋 2003年9月27日 [土]－2003年12月13日 [土] 第2・4土曜日

冬 2004年1月17日 [土]－2004年3月13日 [土] 第1・3・5土曜日

時間＝14:00－16:00 場所＝AIT ルーム (代官山) 定員＝12名 (各回)

費用＝[受講料35,000円+入学手続費2,000円] 合計37,000円 (税別)

受講資格＝特になし。ただし、定員数を超える場合、選考あり。

マガジン [3ヶ月]

期間＝春 2003年4月11日 [金]－2003年6月27日 [金] 第2・4金曜日

秋 2003年9月26日 [金]－2003年12月12日 [金] 第2・4金曜日

冬 2004年1月16日 [金]－2004年3月19日 [金] 第1・3・5金曜日

時間＝19:00－21:00 場所＝AIT ルーム (代官山) 定員＝12名 (各回)

費用＝[受講料33,000円+入学手続費2,000円] 合計35,000円 (税別)

受講資格＝特になし。

クリティカルリーダース [7ヶ月] **NEW**

期間＝2003年4月14日 [月]－2003年12月8日 [月] 第2月曜日 (月1回)

8月と9月は休講です。

時間＝19:00－21:00 場所＝AIT ルーム (代官山) 定員＝12名

費用＝[受講料39,000円+入学手続費2,000円] 合計41,000円 (税別)

受講資格＝英語のレベルが一定以上である方。

お申込み＝下記、ホームページより直接お申し込みいただくか、E-mailアドレスまで、

お名前、ご住所、ご連絡先 (電話、ファックス、携帯電話など) を明記の上、

メールにて申込書をご請求下さい。地図は、ホームページをご参照下さい。

特定非営利活動法人 アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT／エイト]

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-8 ツインビル代官山 B-103

Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0753

E-mail: office@a-i-t.net <http://www.a-i-t.net>

小沢有子 [マネージングディレクター]

学習院大学法学部政治学科卒業後、イギリスのサザビーズインスティテュートオブアーツにて現代美術ディプロマコースを修了。帰国後、ナンジウアンドアソシエイツにて「イタリア現代美術1945-1995展」、「大林組コーポレートアートプロジェクト」「サンパウロビエンナーレ2002」など国内外の展覧会やアートプロジェクトのコーディネイト、コンサルタント、マネージメントを担当。東京藝術大学での講義も行う。

宮原洋子 [サポート]

慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。2003年秋開館予定の森美術館副館長秘書。1995～2002年ナンジウアンドアソシエイツ (株) において、国際美術評論家連盟日本大会事務局、「横浜トリエンナーレ2001」のボランティアスタッフのコーディネイト、MADの立ち上げなどに携わる。



MADは、独自の講義と現場の議論を重視したプログラムで、コンテンポラリーアートの新しいエデュケーションを目指します。

MADは、2001年よりスタートしたコンテンポラリーアートのコースで、キュレーション1（現代美術史・理論を踏まえ、キュレーションを考える基礎プログラム）、オーディエンス（入門者のための、現代美術を鑑賞するプログラム）、アーティスト（アーティストの自立した活動のための理論的バックアップ）、マガジン（海外のアート雑誌から世界のアートシーンを読むプログラム）、そして2003年度より、新しくキュレーション2（キュレーションの実践を試みる専門的な上級プログラム）、クリティカルリーダーズ（現代美術を考える上で参考となる理論書を深く読む中・上級プログラム）の6コースを開講しています。MADは、AITが運営するエデュケーションプログラムです。MADの受講者は、AIT主催のイベントやトーク・シンポジウムなどへの参加費が割引となります。



<http://www.a-i-t.net>

特定非営利活動法人 アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町30-8 ツインビル代官山B-103 Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0753 E-mail: [office@a-i-t.net](mailto:office@a-i-t.net)

Arts Initiative Tokyo Non-profit Organization Twin Bldg., Daikanyama B103, 30-8 Sarugaku-cho, Shibuya-ku, Tokyo 150-0033 Japan